

# 女子高校生へのアンケート

あなたの家族・家庭のしつけは？

## 質問

1. お母さんの毎日の過ごし方について、どんな感想を持っていますか。
2. どんなお父さん、お母さんが理想的ですか。
3. お父さんとお母さんの間柄について、どんな見方をしていますか。
4. 家庭の中で男女差別を感じたことがありますか。例えば、他のきょうだいと比較して。
5. 中学から高校に進む時の選択はどのように行われましたか。
6. あなたの将来について、どう考えているかきかせて下さい。

現在の高校生は、昭和41年から昭和44年3月頃までの、経済の高成長期の最も良き時代に生まれています。

若い人たちの新しい保守化傾向が指摘される中で、今の女子高校生達は、生まれ育った家庭のことで、自分の将来のことなど、どのように考えているのでしょうか。

ごく少数の例しか紹介できませんが、編集員の身近な所から、聞いてみました。

公立・女子のみの高校・一年きょうだい本人と兄

1 中途半端、主婦業によるこびを  
持っているようでもないし、バリバリ仕事や勉強をしているというわけでもないから。

2 母親——優しいこと、でもそれ  
だけでなく、ちゃんとした考えや将来への見通しを持っていることも条件だと思う。

父親——男女差別をしないこと。  
うちの父は、すぐ「女の子だから」と言う。

3 一見亭主関白のようだけど、母も最終的には結構自分の意志を貫いているみたい。

母が父にゆずっているところは全く稼いでいないから仕方ないというところと、家の中にいて、社会的常識が欠けているのを自認しているの、そういう事からについては主張できないからだと思う。  
まあ、持ちつ持たれつって間柄のようです。

4 あります、父は当然のように「女の子だから」という理由でこまごました用を言いつけますし、



母は、たて前としては兄にも私にも同じようにしようとしているけれど、実際には差別しています。「世の中の要請がそうなのだから、やむを得ない」という理由で。

お手伝いでも何でも、私は家族の一人としてやるのは当然と思うからしすけど、女だから、と言われるのはいや。

5 最初の段階は成績で輪切り。その次の選択については、父母からかなり押しつけがあった。通学路が危険だとか、校風だとか——兄の時には全く本人の自由意志にまかせていたのに。

6 大学に行きます。

生涯続けられるやりがいのある仕事をしたいと思っています。親との同居は考えていません。

公立・共学校・一年  
きょうだい——本人と弟

1 行動力、実践力に富み、エネルギーに生きてるので、尊敬している。

2 母親——ものの考え方が一貫し、本気で褒め、叱ってくれるのが理想。父親をたてることも大切だと思います。

3 時として意見のくい違いはあるけれど、仲の良い夫婦だと思う。母は父をたて、父は母によく気を使っている。

4 部屋の掃除などは弟もやるし、特に差別は感じていません。また、男らしく、女らしくという躰は受けていません。

5 父母のアドバイスに耳を傾けて決めました。

6 進学して、小学校の教師になりたい。弟か私か、どちらかが両親と

つしよに住み、子どもは三人ぐらい生んで、結婚後も仕事は続けてゆきたい。

私立・女子のみの高校・三年  
きょうだい——本人・弟・妹

1 働いていて大変だと思う。忙しい忙しいと言っている。

2 母親——明るいけれど、ちょっとしゃべり過ぎみたい。父親——今のままが理想。

3 どちらかといえば、かかあ天下の方。父は、ここぞという時は



決定権を持っているという間柄だと思います。

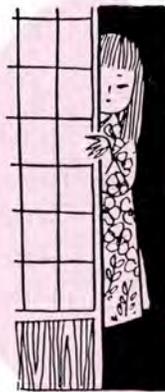
4 弟や妹へのしつけと違いはなくてに男の子らしく、女の子らしくということはない。

ただ、父からは「女の子だから部屋の片づけはしっかりしなさい」と言われたことはある。

5 中学からのエスカレーターなので。

6 進学して、一般の会社に勤めたい。生きがいになるような、自分に適した仕事をしたい。

両親とは別に住んで、時々帰る程度、結婚して子どもを持つても仕事は続けていきたい。



アンケートを読んで

三人の答のなかで、彼女達に共通しているのは⑤の職業観であることに注目しました。三人ともに大学教育を受けて、生涯生き甲斐

となるような仕事を持ちたい、と答えています。

私達母親の世代と比べて、自分の将来に対する考え方は、確かに変わってきていると感じました。

これに対して、将来彼女達と共に歩むはずの若い男性達の意識はどうなのか、と少し心配になりました。

本年一月十日付の中日新聞に、「男子学生の女性観は保守的」という見出しで、千葉大の女子学生が首都圏の男子学生を対象として行った調査が載っていました。

それによれば、66%が「女性の幸せは家事育児に専念すること」65%以上が「伴侶の共働きはノー」80%以上が「育児のために仕事は辞めるべき」、と答えています。

人間は男女にかかわらずなく、持てる可能性を精一杯開花させて、生きたいと願うものです。が、このデータを見る限り、まだまだ女性も男性も、お互いの意識のギャップに苦しむ社会が続くそうです。男も女も、共に主体的に生きられる社会の実現のために、私達は何ができるのでしょうか。

子育ての場での親の態度が、そのひとつの鍵になるはずだ、と強く感じました。

性別役割意識の見直し  
新しい男女観を求めて

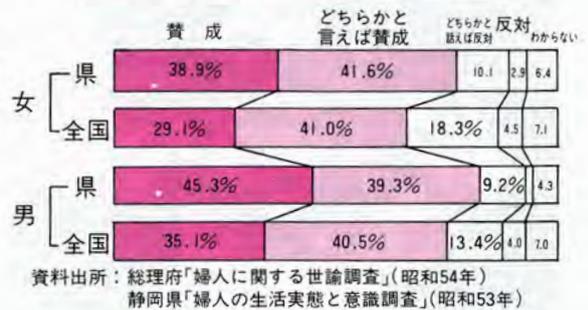
「この十年間に日本の婦人の地位は向上した」と考えている人が78%に達しています(59年・国政モニター調査)。「国連婦人の十年」の取組みの中で、女性の地位は確かに向上してきたと言えます。しかし、「男らしさ、女らしさ」という言葉に代表される性別役割意識は、私たちの生活の中に根強く残っています。

生活実態と意識のずれ

今、本県の20〜54歳の女性は三人のうち二人までが何らかの形で働いています(有業率66・3%、57年)。また、地域活動やボランティア活動に参加するなど、女性の社会参加が盛んになっており、今や「男も仕事、女も仕事」という時代になっています。

ところが、意識の上では、「男は仕事、女は家庭」という伝統的、固定的な役割分業観を肯定する考え方が依然として強く、とくに本県では肯定的な意見が男女とも80%以上を占め、全国の調査と比べても10%近く高くなっています(図1)。

図1 「夫は外で働き、妻は家庭をまもる」という考え方について

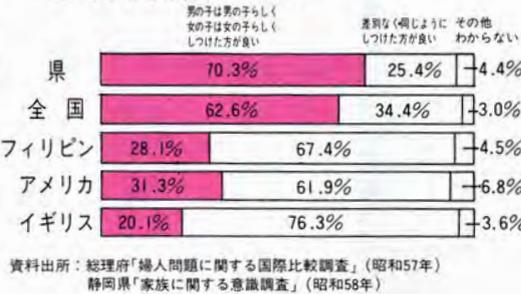


若い世代の意識

「母親だけでなく、父親も家事をやった方がよいと思う」15・5%、「そうは思わない」46・7%(県下の中学生・高校生の意識調査59年・県婦人青少年課)。女性の結婚後の就労継続についても、肯定16・4%、否定27・2%、どちらともいえない55・9%で、「女は家庭」という性別役割分業観が若い世代の間でもいわば「常識」になっています。

性別分業を超えて男女平等を実現するためには、二十一世紀の主役であるこの若い世代の意識を変えていくことがポイントです。ところで、女性の地位が向上し

図2 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」という子どもの育て方について



てきた時代に育ったはずの若者たちが、伝統的な性別役割意識を強く持っているのはなぜでしょうか。つくられてきた性別役割意識。子どもの育て方について、性別を肯定する人が本県では70%、全国でも63%に達しており、諸外国とは著しい違いを見せています。

性別によって性格・動作・行動・生き方などを枠づけ、その枠の中で子どもを育てる。幼児期からそうして育てられていくうちに、性別役割意識が形成され、やがて定着していきます。

男性に有利であったこれまでの社会でいわば「常識」とされてきた「男らしさ、女らしさ」は、実はつくられたものなのです。

男女の不平等を生み出す要因の一つになっている性別役割意識を改めるために、今、家庭でのしつけの見直しが求められています。しつけの見直し——男女平等の視点で

家事分担のあり方、七五三や節句など子ども中心の家庭行事、子どもたちの進路選択など、家庭生活のあらゆる面について男女平等の視点で見直してみましよう。毎日の生活の中で男女不平等の場が意外に多いこと、無意識のうちに男らしさ、女らしさを求めて子どものしつけをしてきたことなど、これまで当たり前だと考えていたことが多くの問題を含んでいることに気がつくはずですよ。

親が生活や意識を変えた時、子どもたちも変わります。二十一世紀を担う子どもたちを男女の差別なくしつけ、「人間らしさ」に満ちた新しい男性・女性として育てるために、今、「新しい親」になることが必要ではないでしょうか。

今年「国連婦人の十年」の最終年。この十年の成果を足場に、男女があらゆる分野へ共同で参加できる社会の実現をめざして、性別役割意識にとらわれない新しい男女観を確立することが望まれます。

# ライタータイム



## お兄さんの口所

四月から大学生になる予定の息子に、料理の特訓をはじめた。

特訓といっても、東海林さだおの「ジョージ君の料理大好き」(新潮文庫・四〇〇円)をテキストとして与え、勝手にやらせるだけ。

「あ、僕は受験生なんだから」とぼやきながらも、結構おもしろがって、チャーハンだの餃子だのを作っている。

チャーハンにはサラダオイルなんか使わないで、豚の三枚肉から削り取った脂で炒める、という具合だから、なかなかおいしい。

餃子の時は、よせば良いのに、凝って皮から作りはじめたので、家族が食事にありつけたのは九時近かった。

「調理時間を把握するのも料理人の力量です」などと、尤もらしく文句を言いながら、ただ頂くだけ、というのは実に嬉しい。

「何だかお母さんが手抜きをするためにやらされてるような気がするなあ」とテキは鋭いことを言う。まさか、そんな、ねえ。

編集員・新井朱実

## 冬の花火

十二月のある日、友人に誘われるままに、秩父の夜祭りに出かけた。土地の知人の案内で、三百年の江戸の文化を今に留める伝統の祭を堪能した。

なかでも特に印象的だったのは、祭の夜空に開いた冬の花火である。\*

## ニッポン男性にモノ申す

アメリカの人間と結婚して、当地に暮らすようになって七年。日本からのお客様を大勢接待し、その通訳をやってきた。

数多い中には、いろいろな人があり、「通訳を人間だと思っていない人もいる。食事しながらお話を、という事になって、私もオーダーしようとする」と、「オヤ、君も食うのか」と言う。こちらとて電池で動いている訳じやないのだ。こういうかたに限って、口に一杯食物を入れたまま、グハハと笑い、同じ日本人として、私まで冷汗をかいてしまう。実業家・政治家といわれる人達に、このタイプが多い。

サラリーマンや、お役人になると、不思議な日本語を使い、これまた通訳泣かせだ。

「エー、本日は、ですね、こちらサイドので

\* 仕掛け花火など、数多くの花火があげられるとは耳にしていたが、正直、私はあまり興味がわかなかつた。

花火は夏の風物詩という先入観と、花火以外の祭に関心が強かったためである。

夜も更け、路上の祭がクライマックスに達する頃、足元からジーンと迫る夜気の中、思わず振り仰ぐ夜空は、高く深く氷りついたように広がる、その真黒なカンバスを瞬時強烈に彩っては消えてゆく花火——冬の花火。

夏のあの解放的な明るさは無い。冷たくて暗くて、強烈に燃えるもの——冬の花火。来年はこの花火だけを見にこよう。

森町・鈴木てい

ですね、まアビジョンを、エー、本日も、ですね、アー」と際限がない。神経胃炎が起ころうだ。

この二つのタイプに共通することは、彼らが見かけによらず、ひ弱で、すぐホームシックにかかり、奥さんの味噌汁を恋慕って国際電話にとびつく点である。電話口で「オイ鞭下がたらんぞ」とか、「胃腸薬はどこへ入れたんだ」とか、偉そうにどなってみせる点も同じ。

私のみる所、近年日本の女たちがどんどん成長しているのに対し、日本の男はどうも一向に育っていない。日本の男性方、海外進出のためにも、もつとオトナになって下さい。

カリフォルニア在住・北又崇子

昨年十一月一日に設立された、(財)静岡総合研究機構は、我が国では数少ない自治体主導タイプのシンクタンクです。

エコノミストとして、内外に広く知られている日本長期信用銀行・常務取締役調査部長竹内 宏氏を理事長に迎え、今春からいよいよ本格的に始動します。理事長を引き受けることになったのもなにかの縁、ふるさとの仕事を楽しんでいます、とおっしゃりながら、インタビューは快調に進みました。

### 静岡総研設立のねらいは？

◆地方の時代ということが言われて久しいのですが、たとえば、静岡県の経済や社会の発展は、まずその地方の人達が考えなければ。その基盤として、総研は、調査・研究を基に、政策への提言をし、世論のコンセンサスづくりに貢献してゆこう、というものです。

## はじめて まして ◆トップインタビュー◆

女性の社会進出は、今後どういう方向へむかうとお考えでしょう。

◆人生八十年、子どもの数が平均一・八人という時代ですから、子育てから手の離れた女性の社会進出はますますさかんになるでしょうね。その影響で、若い女性達も、一生働くという意識で仕事に取り組む人がふえてきます。

雇用面では、女性労働は縁辺労働から中核労働へと変質してゆくでしょうから、そうなる、男女の伝統的な分業関係がいろいろな場で崩れ、新しい形になってくる。この過程で、変化に適応できない人達の離婚とか、秩序の混乱が問題化するかもしれないですね。いずれ、女性労働もキャリア志向、中二階、腰かけ、とコースが分かれ、男性もいくつかの選択コースに分かれるということになるでしょうから、その男女の組合せで、いろいろな夫婦のバリエーションが出てくることになるんじゃないでしょうか。



竹内 宏 理事長

ただ、キャリアウーマンにとって、職場はまだまだ厳しいでしょうから、バリバリ仕事ができる女性が、女として幸せかどうかは別ですけどね。

◆女性労働の増大は、日本経済にどんな影響を与えるとお考えでしょうか。

◆中長期的にみると、日本は労働力が不足してきます。女性労働がそれをカバーするにしても、労働力の質が問題です。女性の進出で、ますます出生率が低下したり、経済成長率が鈍化することになれば、40年〜50年先の日本は、悲惨な高齢社会になりますよ。成長率の高い、強い経済を維持してゆくことと、人間らしい、ゆつたりした人生を楽しむことは、トレードオフの関係という現実があります。

### 理想の女性像をお聞かせ下さい。

◆日によって違うんですが、こちらの言うことを素直にきいてくれる人がいいと思う時と、対等に議論をし、バリバリ仕事をこなす女性がいい、と思う時があります。スポーツでも仕事でも、得意なことを懸命にやっている人は美しいと思いますね。

◆終始笑顔で理路整然、同時に郷土愛が人一倍強く、人間味豊かなロマンチストの一面ものぞかせ、何とも不思議な魅力に圧倒された一時間でした。

インタビューアー・中浜美也子

財団法人 静岡総合研究機構  
設立 昭和59年11月1日  
基本財産 5億円  
所在地 静岡市追手町九ノ六



望月 哲夫 社長

の選別育成に耐えてきた人達です。

◆出産や育児など、女性雇用ゆえのコースト高については？

◆女性労働力には、メリットとデメリットがあります。基本的な給料が安くて、比較的優秀な人材を集めることができるというのは、メリットです。おっしゃるような、女性ゆえのコスト高や、一生をかけて勤めずに途中で辞めてゆく可能性が高いというのは、デメリットですね。こうした問題点に対しては、どうせ働くなら、仕事に生きがいを持てるような働き方の方が、その人にとっても、企業にとってもいいはずという発想で、能力主義と、それにふさわしい報酬で応える、という方法でやってきました。

◆今後、社員としてどんな女性を望みますか。  
◆食生活もそうですが、生活の中で、文化的

なニーズが高まる、という感触を得ています。たとえば、いろいろな種類の会合とか、展示会・発表会・趣味・学習の類です。こういうニーズにこたえる、場や企画やノウハウ全般を提供するといったビジネスが成り立つと思ってるんです。そのためにはセンスの高い人材が不可欠です。大卒女子も、どしどし採用してゆきたいと思っています。

◆社員が、皆クリエイティブに仕事に取り組んでくれることを期待してるんです、とおっしゃる望月社長に、いわゆる社長室はありません。仕切りが全くなく、見通しのきく、一般の社員と同じフロアが仕事場です。

◆趣味はパソコンやビデオの編集制作とのことで、たくさん機器に囲まれて、大きな会議机で書き物をしたり、来客の応待をして居られました。経営者として、挑戦的でシビアなセンスが、女性の能力を育てている、そんな感想を持ちました。

インタビューアー・新井朱実

株式会社 天神屋  
本社 静岡市曲金五丁目一  
創業 昭和29年11月  
資本金 3億円  
年商 60億円  
従業員 約90人